一般社団法人
教育システム情報学会

Japanese Society for
Information and Systems in Education

ニューズ・レター No.235

JSiSE
発行日 2021年12月10日
発行所
一般社団法人
教育システム情報学会
発行者 柏原 昭博
〒162-0801
東京都新宿区山吹町358番地5
アカデミーセンター
URL https://www.jsise.org
E-MAIL secretariat@jsise.org

●○●○●○●○●○●○●≪ も く じ ≫●○●○●○●○●○●

第47回全国大会案内・・・・・・・・・・・・2
第5回研究会開催案内・・・・・・・・・・・・3
第6回研究会講演募集・・・・・・・・・・・・5
特集論文研究会講演募集・・・・・・・・・・7
学生研究発表会発表募集のお知らせ・・・・・8
2023 年度発刊特集号募集・・・・・・・・9
合同英文誌 ITEL 論文募集・・・・・・・・11
第3回研究会開催報告・・・・・・・・・・・12
第4回研究会開催報告・・・・・・・・・・・14
研究会開催年間スケジュール・・・・・・・15
研究会報告年間購読案内・・・・・・・・・・16
支部活動報告・・・・・・・・・・・・・・・17
広報からのお知らせ・・・・・・・・・・・・19
協賛・後援イベントのお知らせ・・・・・・20
会費納入のお願い・・・・・・・・・・・・・21
事務局より・・・・・・・・・・・・・・・・23
会員専用ページの案内,
入会のご案内,
新入会員のご紹介

●○●○●○●○●○●○●○●○●○●○●○●○●○●○●○●○●○●○●

第 47 回 JSiSE 全国大会のご案内

担当者： 全国大会委員会

2022 年度全国大会の開催日と開催場所の予定が決まりました.

開催日：	2022 年 8 月 24 日（水）～ 8 月 26 日（金）
開催場所	新潟工科大学
（予定）：	https://www.niit.ac.jp/

是非ご参加ください．大会の詳細は，随時 Web サイト等でご案内いたします.

■ アクセス

https://www.niit.ac.jp/outline/basic/access/

＜JR 柏崎駅まで＞

- JR 東京駅～JR 長岡駅まで上越新幹線で 100 分
- JR 長岡駅～JR 柏崎駅まで信越本線特急で 25 分，普通電車で 40 分

＜JR 柏崎駅から新潟工科大学まで＞

- 路線バス
  - JR 柏崎駅 南口 「柏崎駅南口～産業大～安田駅前線」 所要時間 15 分 工科大構内下車
  - JR 柏崎駅前 「久米線」 所要時間 20 分 工科大入口下車

2021 年度 第 5 回研究会 開催案内

担当：光原 弘幸，佐々木 整，三石 大，高木 正則，鷹野 孝典(研究会委員会)

■テーマ：

教育 DX と実世界指向学習環境／一般

■開催日時：

2022 年 1 月 8 日(土)

■開催場所：

オンライン開催（Zoom を使用）

■発表申込締切：締切済

■原稿提出締切：

2021 年 12 月 2 日(木)

■趣旨：

本年度第 5 回研究会は「教育 DX と実世界指向学習環境／一般」のテーマで実施いたします.

現代の様々な新技術は教育学習環境を大きく変えようとしています. 例えば, 携帯情報端末や高速無線通信の技術により，世界中の様々な教育コンテンツをいつでもどこでも学べるようになり，国や地域を越えた協調学習も可能になりました. さらに，存在感を有して知的に振る舞うロボット，身の回りの様々なモノをコンピューティングの対象とする IoT，実世界と仮想世界を融合した学習環境を提供する MR/VR/AR など，新しい教育学習環境を切り拓く技術が次々と社会に浸透しています.

また，昨年からは世界的なコロナ禍の影響で，教育学習環境のオンライン化が一気に加速し，教育現場における DX（デジタルトランスフォーメーション）への関心が急速に高まっています. このような学び方や教え方のパラダイムシフトの必要性や可能性を実感する一方で，実際にその場に訪れ，人やモノと接することでしか得られない学びを提供する実世界指向の教育学習環境の重要性に改めて気づかされるきっかけともなっています. すなわち，今後のニューノーマル時代を見据え，オンライン環境を活用しつつ，学習体験を最大化するための実世界指向の教育学習環境をどのようにデザインし，これを実現していくかは，教育システム情報学の分野において活発に議論されるべきアジェンダの一つと言えるでしょう.

こうした教育学習環境の急速な変化を踏まえ，第 5 回研究会では，「教育 DX と実世界指向学習環境」について，そのための教授設計も含め，システム・基礎技術の開発，実践，ならびに，新しい教育・学習手法に関する幅広い研究について，共に考える議論の場としたいと考えています. 多くの皆様の参加をお

待ちしております.

■発表時間等：

発表時間は 25 分（発表 17 分，質疑 7 分，入れ替え 1 分）を予定しております.

■発表申込および研究会への参加方法

2021 年度研究会より，研究発表および研究会参加には，研究報告の年間購読（4,000 円/年）または各回の研究報告の購入（1,000 円/回）が必要となります．ただし，聴講のみを希望する学生会員は研究報告を購入する必要はありません．研究報告は研究会開催日の約 1 週間前に公開されます.

Zoom 開催の場合のアクセス先は，申込受付時に送信されるメールに記載してあります.

〇発表者

原稿提出は，下記「申込者ログイン」よりお願いします.

また，事前参加申込（研究報告の購入）は 12 月 3 日 9 時に開始します.

開始時刻以降に，下記「申込者ログイン」から手続きしてください.

〇聴講のみを希望する学生会員

聴講のみを希望する学生会員は,「申込者ログイン」での手続きは行わず，下記の問い合わせ先まで直接メールでご連絡ください.

〇上記以外の参加者

事前参加申込（研究報告の購入）は 12 月 3 日 9 時に開始します.

開始時刻以降に，下記「申込者ログイン」から手続きしてください.

申込者ログイン：https://iap-jp.org/jsise/course2/login.php

研究会への参加と研究報告の購入・閲覧：https://www.jsise.org/participate.html

■研究報告執筆フォーマットなど：

研究報告執筆要領：https://www.jsise.org/society/pdf/format.pdf

研究報告見本：https://www.jsise.org/society/pdf/sample.pdf

研究報告ひな形：https://www.jsise.org/society/doc/sample.docx

オンライン講演申込・原稿投稿方法：https://www.jsise.org/society/committee/pdf/manual.pdf

■お問い合わせ先：

高木 正則（岩手県立大学，第 5 回研究会担当委員）

E-mail: jsise-sig-5th[at mark]googlegroups.com

（[at mark]の部分は，半角の「@」に変えて下さい）

2021 年度 第 6 回研究会 講演募集

担当者： 尾崎拓郎（大阪教育大学），長谷川理（武蔵野大学），
永田奈央美（静岡産業大学），山本樹（明海大学），
浅羽修丈（北九州市立大学），鷹岡亮（山口大学），西端律子（畿央大学）

■ テーマ：

Society 5.0 に対応したデータサイエンス教育の実践

■ 開催日時：

2022 年 3 月 21 日（月）

■ 会場：

オンライン開催

■ 趣旨：

COVID-19 の拡大の影響により，教育現場においても急激な変化が生じました．当初は，緊急的に行われてきたデジタル化，オンライン化や，サイバー空間を利活用した新たな教育・学習環境において多くの実践がなされる中で，さまざまな経験知が蓄積されてきています．そして，日本が実現を目指す Society 5.0 の社会では，社会全体で持続的に新たな価値を生み出すことが求められており，ひとりひとりが Society 5.0 の担い手として活躍できるように，初等中等教育の各段階から新たな価値創造をするための能力の育成を行っていく必要があります．また，内閣府が提示している「AI 戦略 2019」においても，デジタル社会の基礎知識（いわゆる「読み・書き・そろばん」的な素養）である「数理・データサイエンス・AI」に関する知識・技能，新たな社会の在り方や製品・サービスをデザインするために必要な基礎力など，持続可能な社会の創り手として必要な力を全ての国民が育み，社会のあらゆる分野で人材が活躍することを目指し，2025 年までに教育に各教育機関での教育目標が掲げられています．これらのことから，新たな価値創造をする人材育成のための「データサイエンス教育」について参加者の皆さんと考えていきたいと思います．

そこで第 6 回研究会では，上記についての研究や議論を深めるため，「Society 5.0 に対応したデータサイエンス教育の実践」に関連する研究発表を募集します．対象は，データサイエンス教育の実践に限りませんので，データサイエンス教育に関係するシステムや，Society 5.0 に関わる学びの DX 化等に寄与するシステムなどを開発・研究されているものなどについてもぜひご応募ください．

その他，教育の情報化に関連した研究発表や本学会の取り扱う領域における一般研究発表も幅広く募りますので，奮ってご投稿ください．

■ 発表申込締切：

2022 年 1 月 27 日（木）

■ 原稿提出締切：

2022 年 2 月 17 日（木）

■ 発表時間等：

発表時間は 25 分（発表 17 分，質疑 7 分，入れ替え 1 分）を予定しております．

■ 発表申込および研究会への参加方法：

2021 年度研究会より，研究発表および研究会参加には，研究報告の年間購読（4000 円/年）または，各回の研究報告の購入（1000 円/回）が必要となります．ただし，聴講のみを希望する学生会員は研究報告を購入する必要はありません．

Zoom 開催の場合のアクセス先は，申込受付メールに送信されるメールに記載してあります．

詳しくは

https://www.jsise.org/society/committee/2021/CFP_6th.html

をご覧ください．

■ 研究報告執筆フォーマット：

研究報告執筆要領： https://www.jsise.org/society/pdf/format.pdf

研究報告見本： https://www.jsise.org/society/pdf/sample.pdf

研究報告ひな形： https://www.jsise.org/society/doc/sample.docx

オンライン講演申込・原稿投稿方法：https://www.jsise.org/society/committee/pdf/manual.pdf

■ お問い合わせ先：

大阪教育大学　尾崎拓郎（第 6 回研究会担当委員）

E-mail ： jsise-sig-6th_at_googlegroups.com （「_at_」は，半角の「@」に変更してください）

2021 年度 特集論文研究会 講演募集

担当者： 学会誌編集委員会委員長 瀬田 和久（大阪府立大学）

■ テーマ： 次世代の人材を育成するために変革する教育システム

■ 開催日時： 2022 年 3 月 22 日(火)

■ 会場： オンライン開催

■ 趣旨：

COVID-19 の影響により，各高等教育機関でのオンライン授業，BYOD が広く展開されるなどデジタル技術の活用が促進され，新たなカリキュラムや学習のあり方，学習環境の革新に向けて，教育手法が一層多様化していく中で，そうした時代に対応すべく教育 DX(デジタル・トランスフォーメーション)が謳われています．ポストコロナを見据えた「Society 5.0」では，サイバー空間とフィジカル空間を高度に融合させたシステムにより，経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会が提唱されています．そうした社会システムの実現に向けて，数理的推論やデータ分析力を含むリテラシーや，論理思考力，規範的判断力をベースに社会システムを構想・設計する力を持つ人材が求められています．また，現在，大学入学共通テストへの「情報」の出題が検討される中，専門分野を問わず，誰でも数理・データサイエンス，AI 活用の素養を身につけられる教育システムが必要となっています．本特集論文研究会では，このような状況下での次世代の人材を育成するために変革する教育システムにフォーカスします．

発表申込 締切： 2022 年 1 月 27 日(木)
原稿提出 締切： 2022 年 2 月 17 日(木)

学生研究発表会発表募集（第２報）

担当者：　人材育成委員会

今年度も学生研究発表会を開催する予定です．

開催方式（現地開催・オンライン開催の別等）を含め，スケジュールの最新情報および申込み方法は，学会ウェブページ（https://www.jsise.org/society/presentation/index.html）にて更新します．概ね以下のスケジュールで更新予定です．

	学会ウェブページへの掲載内容
12 月中旬	2021 年度開催地区（支部）一覧と担当者名（問い合わせ先）の掲載
12 月下旬	開催方式・開催日時・開催内容（ポスター発表の有無等）の掲載 発表申し込みページの公開
1 月下旬	発表申し込み〆切
2 月上旬	発表原稿の提出〆切
2 月下旬から 3 月	学生研究発表会の開催

学生研究発表会では，優れた発表に対して，優秀発表賞（口頭発表），優秀ポスター発表賞（ポスター発表）の表彰をしています．過去の受賞リストおよび，発表原稿については，上記の学会ウェブページに掲載されています．皆様の積極的な参加・発表をお待ちしております．

発表資格：大学院生，大学生・短大生，高専生，専門学校生，高校生の他，社会人学生も可能です．
留学生の方の発表（英語・日本語）の発表も歓迎します．
※いずれも JSiSE 正会員である推薦人（指導教員または関係者）の推薦が必要です．

発表場所：詳細は 12 月下旬以降にウェブページをご確認ください．
自分の所属する大学等の場所（支部）と一致していなくても問題ありません．

2023 年度発刊　特集号論文募集

担当者：　学会誌編集委員会委員長 瀬田 和久（大阪府立大学）

「 次世代の人材を育成するために変革する教育システム 」(予定)
論文投稿締切：2022 年 6 月 1 日(水)（予定）
2023 年 4 月 1 日 発行（予定）

COVID-19 の影響により，各高等教育機関でのオンライン授業，BYOD が広く展開されるなどデジタル技術の活用が促進され，新たなカリキュラムや学習のあり方，学習環境の革新に向けて，教育手法が一層多様化していく中で，そうした時代に対応すべく教育 DX(デジタル・トランスフォーメーション)が謳われています．ポストコロナを見据えた「Society 5.0」では，サイバー空間とフィジカル空間を高度に融合させたシステムにより，経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会が提唱されています．そうした社会システムの実現に向けて，数理的推論やデータ分析力を含むリテラシーや，論理思考力，規範的判断力をベースに社会システムを構想・設計する力を持つ人材が求められています．また，現在，大学入学共通テストへの「情報」の出題が検討される中，専門分野を問わず，誰でも数理・データサイエンス，AI 活用の素養を身につけられる教育システムが必要となっています．本特集号では，このような状況下での次世代の人材を育成するために変革する教育システムにフォーカスします．

１．<u>対象分野</u>

Society5.0 の実現のためにベースとなる SDGs では，地球規模の課題解決に取り組み，社会に貢献できる人材を育てることが社会的使命となっています．農業・工業・医療等，あらゆる幅広い分野において，レジリエントな社会の実現に向けた価値観を育む DX(デジタル・トランスフォーメーション)が期待されます．今後の Society5.0 の発展を見据え，初等・中等から高等教育機関における AI 教育，情報教育等に加え，リカレント教育も含めた社会の教育発展に寄与する先行的な取り組みに注目します．情報教育（デジタルリテラシー教育，IoT を利活用したサービスデザインの教育，教育の枠組み設計等），また，地域活性化に向けた産学連携・産学官連携も含めた人材育成支援の取り組み等に関する発表を広く募集いたします．

２．<u>論文種別</u>

すべての種別(一般論文，実践論文，ショートノート，実践速報)の論文を募集いたします．なお，査読を通して，異なる種別での採録となる場合があります．また，内容により一般号掲載論文へ変更する場合があります．

３．投稿要領

教育システム情報学会学会誌原稿執筆要領に準じます．詳細は教育システム情報学会の Web ページで確認してください．Web 投稿の際には，以下の点にご注意ください．

- 「投稿種別」で「特集号」を必ず選択してください．
- 特集論文研究会(2022 年 3 月 22 日(火))で発表を行った方は，投稿情報入力の際に 「事務局への連絡事項」の欄に，特集論文研究会での発表題目と発表番号を記載してください．

４．スケジュール

論文投稿締切：　2022年6月1日(水)（予定）
採録通知予定：　2022年12月初旬まで（予定）
学会誌　掲載：　学会誌Vol.40, No.2, 2023年4月1日発行（予定）

本特集号と同一テーマの研究会「特集論文研究会」を開催します．是非，ご発表・ご参加ください．詳細は，今後の最新の開催案内(https://www.jsise.org/society/committee.html)をご覧ください．

特集論文研究会：　2022 年 3 月 22 日(火)
会　　場：　オンライン開催（方式：Zoom による遠隔会議システムの利用を予定）
発表申込　締切：　2022 年 1 月 27(木)
原稿提出　締切：　2022 年 2 月 17(木)

５．特集号編集委員会

委 員 長：　瀬田 和久(大阪府立大学)
副委員長：　村上 正行(大阪大学)
筆頭幹事：　後藤田 中(香川大学)
幹　　事：　高木正則（岩手県立大学），田中孝治（金沢工業大学），
山崎 治（千葉工業大学）
幹事補佐：　近藤 伸彦（東京都立大学），津森伸一（聖隷クリストファー大学），
山元 翔（近畿大学）
委　　員：　学会誌編集委員

６．問い合わせ

全　般：　後藤田 中（香川大学）　E-mail: gotoda.naka@kagawa-u.ac.jp
Web投稿：　編集事務局　電話： 03-5389-6492　E-mail: jsise-edit@bunken.co.jp
〒169-0075　東京都新宿区高田馬場4-4-19
株式会社国際文献社 長澤氏・山田氏・祁氏

Information and Technology in Education and Learning (ITEL)
論文募集［ https://www.j-itel.org ］

日本教育工学会（JSET）との合同英文誌 ITEL（Information and Technology in Education and Learning, https://www.j-itel.org）Vol.2 への掲載原稿を募集しています．この ITEL では，我が国における教育工学・教育システム情報学の国際的な発信力を強化するとともに，国際的な共同研究・研究交流のプラットフォームになることを目指しています．ITEL は， J-STAGE をプラットフォームとしたオープンアクセスジャーナルです．研究対象は，教育システム情報に関連した領域全般はもちろん，様々な教授学習場面のための方法・技術に関する基礎研究・開発研究・実践研究等も含まれます．投稿後，7 か月までには，採録の可否を決定・通知する予定ですので，短期間で，革新的な研究成果，ユニークな実践等を世界に向けて発信するために活用していただければ幸いです．

○ 論文種別： 一般論文（Regular Paper, 基本 8 ページ），
実践論文（Practice Paper, 基本 8 ページ），
システム開発論文（Development Paper, 基本 8 ページ），
ショート論文（Short Paper, 基本 4 ページで最長 6 ページまで）
<これまでのショートノート（Short Note）と実践速報（Report on Practice）を含みます>

○ 投稿締切：1 年中投稿を受け付けています．

○ 投稿要件：

- 論文は他学会において査読中でないこと，そして，その主要部分が未発表であること．ただし，国際会議，学会の大会，研究会等で口頭発表した内容をまとめたものは投稿することができます．
- 投稿者は本会会員である必要はありませんが，本会会員あるいは JSET 会員である場合には掲載料に会員の価格が適用されます．投稿者が 2 名以上の連名の場合は，そのうち少なくとも 1 名が会員であれば，掲載料に会員価格が適用されます．

○ 原稿執筆要領：ITEL Web サイトに，執筆要領（Author Guidelines）等がアップされています．

○ 投稿方法：＜ [ITEL 電子投稿システム] https://iap-jp.org/j-itel/journal_e/ ＞

- ITEL Web サイト上から，電子投稿システムにログインして投稿を行って下さい．
- 初めて電子投稿システムを利用する場合は，まず利用者用 ID の発行手続きを行って下さい．
- 投稿論文は，論文執筆用テンプレートファイルを用いて PDF ファイルに出力して提出して下さい．
- 投稿論文は,投稿前にできるだけ英文校正（Proofreading）を受け，証明書提出を推奨しています．

○ 査読方法：

- 投稿論文の査読は，JSiSE 英文誌と同様に，シングルブラインド制で行われます．
- 査読者は 2 名で，査読回数は 2 回となります（著者照会は 1 回のみ）．
- 評価項目は，Originality（新規性），Usefulness（有用性），Reliability（信頼性），Presentation（明瞭性）の 4 項目となり，JSiSE 英文誌と異なり，査読中に投稿論文の種別変更はありません．
- 投稿者の希望に基づき，JSiSE 英文誌と同様，日本語で査読コメントを受けることもできます．

2021 年度 第３回研究会 開催報告

担当者：三好康夫（高知大学），安間文彦（サイバー大学），小西達裕（静岡大学）

■テーマ：対面・オンライン・ハイブリッド授業支援／一般
■開催日：2021 年 9 月 24 日(金)
■会　場：オンライン
■概　要：

2021 年度第３回研究会は，9 月 24 日に Zoom によるオンラインにて「対面・オンライン・ハイブリッド授業支援／一般」というテーマで開催されました。発表件数は 14 件で，39 名の方々にご参加いただきました。朝 9 時から夕方 17 時過ぎまでの長時間の研究会となりましたが，どの時間帯も Zoom 会議には多くの参加者からの接続があり，発表後の質疑では活発な議論が行われました。

内容としては，テーマに挙げていたオンライン授業に関する研究発表が多くありました。オンライン授業における授業閲覧や課題提出の先延ばしを抑制する方法について検討を行った研究，オンライン授業や教育 DX に対応できるクラウド型の数理･プログラミング教育システムを開発し授業実践を行った研究，Web 会議によるオンライン授業において画面共有された授業コンテンツに教師の姿を重ねて表示するシステムを開発し検証を行った研究，教室間をつなぐ遠隔合同授業における学習者の状況把握を支援するためのシステムの提案と試作を行った研究，オンライン授業の中で行うグループ活動を時間管理や情報共有の機能により支援する Web アプリの開発と授業実践を行った研究，Teams の Webhook の仕組みを活用しオンライン授業の質問予約を質問したい TA を選択して行えるシステムを試作･授業実践した研究など，コロナ禍の影響で実施されたオンライン授業における実践・取り組み事例に基づいた様々な研究発表が行われました。

他にも，オンライン留学の利点や課題を短期留学と長期留学の実例を踏まえて考察した研究，介護業界の人材不足問題に対する解決策として ICT を導入することにより生じる利点と課題を考察した研究，外食産業の食品ロス問題の解決を目指したアプリに着目し消費者への意識調査から問題解決の可能性を考察した研究，健康的なダイエットの支援において AI 管理栄養士の機能を備えたアプリの有用性をアンケート調査から考察した研究，部下のメンタルヘルスを維持するための関わり方を学ぶ e ラーニング教材を設計・開発した研究，スポーツスキル学習支援において概念知の習得の重要性に着目し習得支援手法の提案を行った研究，防災教育教材の有効性を統一的に評価するための評価指標を提案し検証した研究，プログラミング学習における概念の理解を対象に学習者間の相互評価による効果を調査した研究，と多様な研究発表が行われました。

発表者や参加者の皆様のご協力により，接続トラブルなどもなく，円滑に研究会を進行することができました。ありがとうございました。

なお，第３回研究会で発表されたタイトルは以下の通りです。

- オンライン留学における ICT 活用の現状と課題
- 介護業界における ICT 導入の課題と可能性について

- 外食産業における食品ロスの課題とアプリケーションの可能性
- 健康的なダイエットの認知における ICT 活用の可能性と課題
- オンライン授業における大学生の先延ばしに関する検討 -自己調整学習の観点から-
- 労働者のタイプに応じた対応スキルの修得を目指した e ラーニングの開発
- スポーツスキル学習のモデル化と概念知習得支援
- 防災教育教材の評価指標に関する調査・提案
- プログラミング学習の専門的な概念理解における相互評価の効果
- 数理・プログラミング教育のためのクラウド教育システム開発の取組報告
- Web 会議システムを用いた遠隔授業における教師シルエット配信の有用性の検証
- 遠隔合同授業における机間指導のための授業者支援システムの検討
- オンライン授業におけるリアルタイム型グループ活動支援アプリの開発
- オンライン授業で TA を選択して質問予約できる chat bot の試作

2021 年度第 4 回研究会開催報告

担当者：　長谷川忍，柏原昭博，小尻智子，曽我真人，松浦健二(研究会委員会)

- テーマ：身体的・認知的スキルに関わる支援技術／一般
- 開催日時：2021 年 11 月 13 日(土)　10:00～16:20
- 開催方法：Zoom を用いたオンライン開催
- 発表件数：11 件
- 参加者数：32 名

今年度の第 4 回研究会は,「身体的・認知的スキルに関わる支援技術」をテーマに開催しました．なお，今回も新型コロナウィルス感染症予防の観点から Zoom を用いたオンラインで開催しました．ジュニア卓球競技大会のアドバイス事例分析やダンス力向上支援，熟練工技術伝承コンテンツ作成，月の満ち欠けの AR 空間による体験学習，スキル熟達化に関する情報学的考察，チームスポーツの戦術学習支援環境などといった，スキル学習にフォーカスされた研究に加えて，オンライン化による質問傾向変化やコロナ禍におけるオンラインピアサポート活動による学びの分析，VR 遠隔授業評価支援システム，熟語学習アプリケーションの開発，マインドマップとルーブリックによる学修過程評価など，コロナ禍で顕在化した様々な課題に向き合った，計 11 件（テーマ発表 7 件，一般発表 4 件）の発表がありました．いずれの発表も活発に質疑応答が行われ，非常に充実した研究会となりました．

今回 CFP を準備した段階では，新型コロナウィルスの日毎の感染者が全国で二桁程度にまで落ち着くことを想定できておらず，オンラインでの開催となりましたが，皆様のおかげをもちまして，トラブルもなく，充実した研究会になりました．開催担当者一同，御礼申し上げます．来年度は会場でお会いできることを期待しております．

なお，11 件の発表の題目は以下の通りでした．

- 授業のオンライン化による質問傾向変化の分析
- 地方のジュニア卓球競技大会の試合時アドバイスの事例分析の試み
- 「推し」とダンス力向上支援システムを組み合わせた運動プログラムの提案
- 漢語話者留学生を対象とした熟語学習アプリケーションの開発
- アイトラッカーの作業分析による熟練工技術伝承コンテンツの作成
- 月の満ち欠けを AR 空間の共有により体験し理解を促進する学習支援環境の構築
- 無人称に関する情報学的研究
- チームスポーツの俯瞰視点とプレイヤー視点に着目した戦術学習支援環境
- コロナ禍の大学におけるオンラインピアサポート活動の運営を担った学生の学びと成長
- アクティブ・ラーニング型授業の評価改善に向けた VR 遠隔授業評価支援システムの提案
- マインドマップとルーブリックの組合せによる学修過程評価

2021 年度研究会開催スケジュール

担当者：　研究会委員会

2021 年度の年間スケジュールは下記の通りです.
詳細は，学会ウェブページ（https://www.jsise.org/society/committee.html）をご覧ください.

回	テーマ	開催日	会場	発表申込締切	原稿締切
第 1 回	DX 時代に向けた学習環境の変革／ヘルスケア分野における ICT 活用の高度化／一般	終了	オンライン開催	終了	
第 2 回	ICT を活用した学習支援と教育の質保証／一般	終了	オンライン開催	終了	
第 3 回	対面・オンライン授業支援／一般	終了	オンライン開催	終了	
第 4 回	身体的・認知的スキルに関わる支援技術／一般	終了	オンライン開催	終了	終了
第 5 回	教育 DX と実世界指向学習環境／一般	2022 年 1 月 8 日(土)	オンライン開催	終了	終了
第 6 回	Society 5.0 に対応したデータサイエンス教育の実践	2022 年 3 月 21 日(月)	オンライン開催	2022 年 1 月 27 日(木)	2022 年 2 月 17 日(木)
特集	次世代の人材を育成するため変革する教育システム	2022 年 3 月 22 日(火)	オンライン開催	2022 年 1 月 27 日(木)	2022 年 2 月 17 日(木)

研究会全般に関するお問い合わせは，学会事務局までお願いいたします.

研究会報告年間購読の申し込みについて

研究報告は，2016 年度からは印刷媒体での研究報告は廃止し，オンライン上でタイムリーかつオンデマンドな閲覧が可能となるように，研究報告を電子化しています．保管などの手間もなく，大変便利に活用できるようになっております．

是非，研究会報告の「年間購読」のお申し込みをご検討いただければ幸いです．研究会当日も電子媒体として販売する予定ですが，年間購読がお得になっております．

・年間購読:4,000 円(定例研究会年 6 回，特集研究会 1 回，計 7 回分を含む)
・当日販売:1 冊 1,000 円

新規での「年間購読」申込みにつきましては，年会費をお支払いいただく前に会員種別変更申込をお願いします．以下の手順でお申し込みください．すでに年間購読をしていただいている方は手続き不要です．

1) 年会費納入手続きの前に，下記フォームにて事務局（secretariat@jsise.org）まで年間購読申込をしてください．

==========
※研究報告年間購読希望
会員番号（お分かりであれば）：
お名前：
所属：
連絡先 e メールアドレス：
==========

2) 手続き終了後，事務局より会員種別変更完了のご連絡を差し上げます．
3) マイページから年会費と合わせて年間購読費をお支払いください．

※年会費納入後に「年間購読」を申込みご希望の場合は，事務局（secretariat@jsise.org）までご連絡ください．年間購読の請求書をお送りし，会員種別変更の手続きを進めさせていただきます．

北信越支部より活動報告

北信越支部主催ワークショップ「成果発表を磨く」開催・募集のお知らせ

担当者：　教育システム情報学会　北信越支部

北信越支部では，広く教育工学，教育システム情報学を研究する学生・若手研究者の自己研鑽を支援するため，【成果発表を磨く】というワークショップを開催しています。

内容は，論文執筆を目標とした研究のまとめかたに関する講演とともに，学位取得を目指す博士生や論文投稿を目指している修士生による研究発表と，論文執筆と目標とした議論です。過去のワークショップでは参加者より，多くのコメントもいただきました。これらの様子は，北信越支部の Web サイトや Facebook にてご覧いただけます。また，数多くのコメントをいただいた博士課程学生の皆さんは論文採録 2 本，国際コンペ表彰 1 名，学位取得 4 名など，それぞれに成果をあげています。

本年度は以下の内容にて開催を計画しています。なお，本ワークショップは，全国の学生会員もしくは会員の皆様が指導されている学生を対象としたワークショップとなっております。

「成果発表を磨く」実践的な機会であり，研究に対する多くの有益なコメントをいただける機会です。併せて，学生研究発表会もありますので，学生の皆さんはこれらと合わせて是非ご参加ください。

○北信越支部ワークショップ【成果発表を磨く】

開催日時：2022 年 3 月上旬（予定）

開催場所：※ オンライン開催の可能性を含めて検討中。決まり次第 Facebook でご案内します。

話題提供・討論概要：

申込者には，1 件あたり 50 分の時間が与えられます。

与えられた時間の中で話題提供と討論をしてください。

事前に予稿等の原稿提出は不要です。当日の資料配付等は可とします。

対　　象：博士後期課程学生もしくは博士前期課程で論文投稿を目指す者

JSiSE 学生会員または JSiSE 会員に指導を受ける者

申込方法・〆切：※ 現在，開催日時を調整中です。決まり次第 Facebook でご案内します。

申込み，お問い合わせ先：北信越支部研究会担当 hse-submit@jsise.org

※　話題提供のタイトル，氏名，連絡先，指導教員の氏名をお知らせください。

北信越支部 Web サイト：https://www.jsise.org/~hse/

北信越支部 Facebook　：https://www.facebook.com/jsisehse

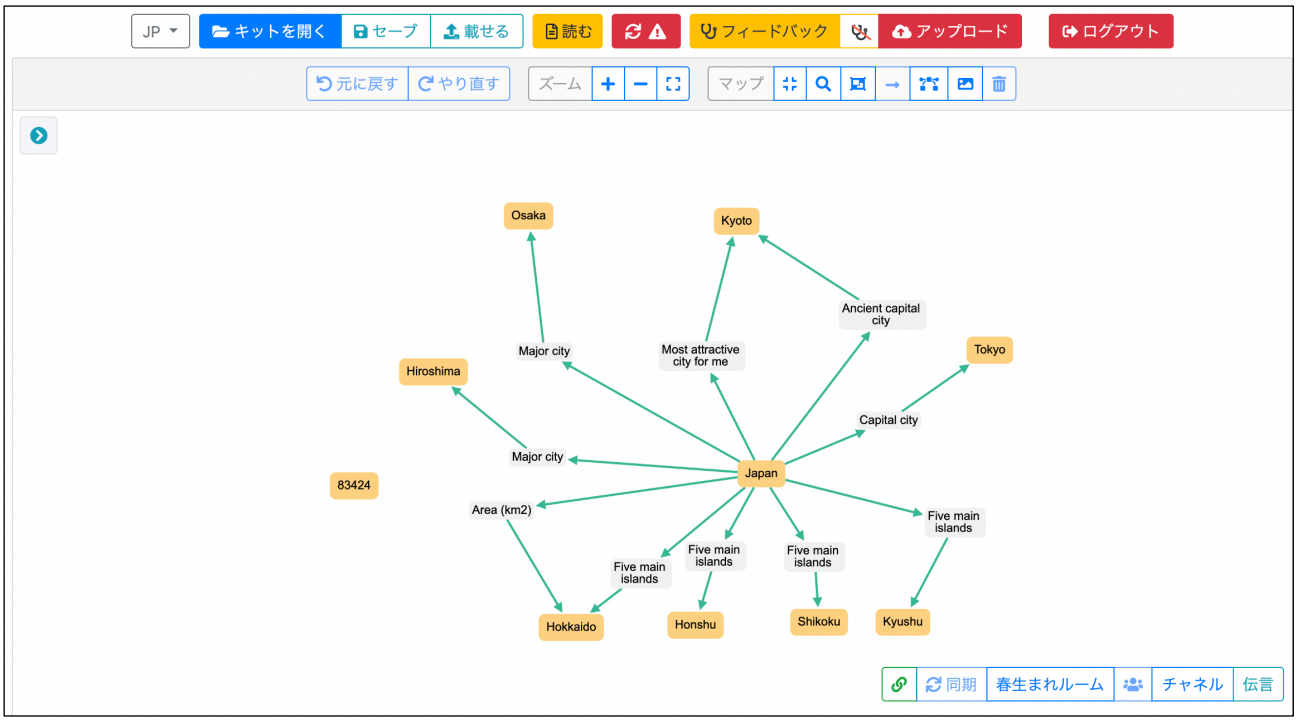
中国支部より活動報告

JSiSE 中国支部研究発表会開催報告

担当者：　教育システム情報学会　中国支部

11 月 6 日（土）に、今年度の JSiSE 中国支部研究発表会をオンラインにて開催しました。今回の研究発表会は、第 18 回（2021 年度）e ラーニングアワード文部科学大臣賞受賞記念講演として、広島大学の平嶋宗先生に「キットビルド概念マップの理論と活用：形成的評価・批判的思考・共同作業・FD の観点から」と題した特別講演をいただきました。電子情報通信学会教育工学研究会とのジョイントで開催したこともあり、中国地区だけでなく北海道から九州まで全国各地から合計 29 名が参加しての研究発表会となりました。講演内容も、参加者が実際にキットビルドを操作してマップを作る作業体験を組み込むなど、実践的で興味深いものでした。

研究発表会についての詳しい報告は JSiSE 中国支部のホームページにある「研究発表会」をご覧ください。



広報からのお知らせ

Twitter アカウントの紹介

2016 年 8 月下旬より，全国大会開催に合わせて学会の公式 Twitter アカウントを開設しました．本アカウントは原則として当学会の広報を目的とした配信専用としております．本学会へのご質問・お問い合わせは，学会事務局（secretariat@jsise.org）へお願いします．また，Facebook アカウントとの連携も行っており，Facebook ページの投稿が Twitter にも流れますので，ぜひご活用（フォロー）ください．

https://twitter.com/JsisePr

✧ 2021 年 11 月 23 日現在，フォロワー数 257 アカウント

Facebook ページもご覧ください

教育システム情報学会では Facebook ページを運用しています．本ページでは，

・論文・発表募集

・本学会に関連するイベントの情報

などを，いち早くお届けします．ぜひ，ご覧下さい．

Facebook ユーザの方は，ぜひ，「いいね」をお願いいたします．

https://www.facebook.com/jsise.org/

✧ 2021 年 11 月 23 日現在，いいね 477 件，523 人フォロー

他団体　協賛・後援イベントのお知らせ

共催「第 16 回医療系 e ラーニング全国交流会年次大会」
日時：2021 年 12 月 18 日（土）～12 月 19 日（日）
会場：オンライン開催

協賛「スマートライフ 2022 年大会」
日時：2022 年 3 月 11 日（金）・12 日（土）
会場：オンライン開催

会費納入のお願い

会費納入についてのお願いです．学会の活動は皆様の会費で支えられていますので，2021 年度会費未納の方はご協力のほどどうぞよろしくお願いします．なお，7/13 に会費納入のお願いをメールでお送りしましたので，合わせてご確認をお願いします．

URL　https://bunken.org/jsise/mypage/Login
※会員専用ページの URL は，会員情報管理システムの業務委託をしている
株式会社国際文献社のものです．

- 「銀行振込」をご希望の方は，下記のいずれかの口座へお振込みをお願いいたします．

■振込先

◆ゆうちょ銀行
口座記号番号： 00180-6-709632
加入者名： 一般社団法人教育システム情報学会
フリガナ： シャ）キョウイクシステムジョウホウガッカイ

※他金融機関からゆうちょ銀行に振込む場合
銀行名：ゆうちょ銀行（金融機関コード：9900）
店名：〇一九 店（ゼロイチキユウ店）　預金種別：当座　口座番号：0709632
名義：一般社団法人教育システム情報学会
フリガナ： シャ）キョウイクシステムジョウホウガッカイ

◆三菱 UFJ 銀行（金融機関コード：0005）
店名： 上新庄支店（カミシンジョウ支店）
預金種別：普通　口座番号：0142708
名義：一般社団法人教育システム情報学会
フリガナ： シャ）キョウイクシステムジョウホウガッカイ

◆みずほ銀行（金融機関コード：0001）
店名：茨木 支店（イバラキ支店）
預金種別：普通　口座番号：1399483
名義： 一般社団法人教育システム情報学会
フリガナ： シャ）キョウイクシステムジョウホウガッカイ

- 請求書・領収書（支払い後）は，マイページでオンライン発行できます．
- 請求書・領収書の郵送をご希望の方は，事務局（secretariat@jsise.org）までご連絡ください．

※団体名でお振込みいただきますと，個人を特定できない場合がございますので，振込名に会員番号またはお名前をご入力いただくか，難しい場合は，振込内容を事務局までご連絡いただければ幸いです．
※所属が変わった方は，マイページにログインした際に，連絡先などを変更するようお願いいたします．

【過年度年会費を支払われていない方へ】

マイページでは，全ての年度の未納金額を合算した金額が請求されます．先に本年度以前の分のお支払いを希望される方は，先に郵送された払込用紙付請求書をご利用になるか，学会事務局（secretariat@jsise.org）までご連絡下さい．

※会費のお支払いが確認できない場合，学会からの送付物を停止させていただく場合があります．また，会員資格停止の手続きを進めさせていただく場合があります．

ご不明な点は，事務局（secretariat@jsise.org）までお問合せ下さい．

〒162-0801　東京都新宿区山吹町 358-5　アカデミーセンター
Tel:03-6824-9376　Fax:03-5227-8631　Email：secretariat@jsise.org

事務局より

会員専用ページのご案内

URL：https://bunken.org/jsise/mypage/Login

※会員専用ページの URL は，会員情報管理システムの業務委託をしております株式会社国際文献社のものです．

■会員専用ページでは，以下のことができます．

1. 会員個人ページでの，現在の登録情報の確認・変更
2. 年会費納入状況の確認
3. 会費の納入，クレジット/コンビニ決済
4. パスワードの変更

会員種別，フリガナ，研究報告年間購読の登録等はマイページでは変更できませんので，お手数ですが JSiSE 事務局会員窓口（secretariat@jsise.org）までご連絡をお願い致します．

ログインには， ID とパスワードが必要です．

パスワードをお忘れになった場合は，上記ウェブサイトにて照会できます．何かご不明な点がございましたら，JSiSE 事務局会員窓口（secretariat@jsise.org）までご連絡ください．

今後とも教育システム情報学会の活動にご理解ご協力のほど，何卒よろしくお願い申し上げます．

入会のご案内

入会をご希望の方は，下記のサイトよりオンライン入会申込フォームにアクセスしていただき，お申し込みをお願いいたします．

URL： http://www.jsise.org/admission/index.html

☆キャンペーン☆

※現在，本学会開催の研究会等で，会場にて新規お申し込みいただいた方には，入会金を無料にさせて頂くというキャンペーンを行っております．そちらも，合わせてご案内いただきますようお願いいたします．

新入会員のご紹介

下記の皆様が新しく入会されました.（2021 年 9 月 18 日～2021 年 11 月 18 日）
本学会での益々のご活躍を期待しております！

会員名	会員種別	会員名	会員種別
島袋　彩翔	正会員（購読）	安部　健太	正会員（購読）
田仲　里江	正会員	遠藤　晃男	正会員
石川　菜流	学生会員	青木　千帆子	正会員
加藤　圭太	学生会員	関戸　啓文	学生会員
岡田　朋子	正会員	中川　友梨	学生会員
竹森　崇人	正会員		

（計 11 名）